本愛

発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL（052）461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL（0743）62-0378
編集責任　広報部

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

秋季大祭執行　秋晴れのもと

立教の元一日に由来する立教187年の秋季大祭は10月13日、大教会神殿で厳かに執行された。祭典には、大教会世話人の松村義司本部員がご巡教くだされた。

さわやかな秋空が広がった10月13日午前10時、神前へと進んだ安藤吉人・大教会長は祭文の中で、「教祖の道具衆としての信念を持った本愛ようぼく一同が人だすけに勇み、活動目標『今日を陽気に。つながる、つなげる。』を合言葉に、新しいつながりをつくる努力をし、目の前の人一人ひとりを大切にして、たすけを求める人に向き合うおたすけ活動を推し進めて、ただいまの大教会の活動『おたすけ推進団参』につなげ、教祖140年祭活動として各教会が活気あふれる活動を誓い合い、ようぼく信者がこぞって実働させていただけますよう」と願った。

祭典後には記念写真の撮影が行われた

続いて、おつとめと十二下りのてをどりが陽気につとめられた。

大教会では11月30日まで「おたすけ推進団参」を各教会がそれぞれ行っており、来年6月と11月には高安大教会につながる「うちわけ会」団参が実施される。

神殿講話より　松村義司先生

秋季大祭の神殿講話には、大教会世話人の松村義司本部員が登壇された（次ページ写真）。講話の一部を要約して紹介する。

先ごろは本愛大教会の創立110周年記念祭を盛大に執り行われ、心晴れやかに、また気持ちも新たに今日の大祭を迎えられている方も多いのではないかと推察いたします。

創立記念祭というのは、親神様・教祖のご守護はもとより、先輩方の真実の営みに対して御礼を申し上げ、これからの歩みへの決意をともにする機会だと私は思います。

そのよすがとして、真柱様からメッセージを頂戴したことと思います。その中で「本愛の道は一日にして成ったのではなく（中略）皆さん方の先祖先人が、教祖のひながたを慕ってたすけ一条に道を通り、つとめてきたからこそ今日がある」

（次ページへ続く）

11月のこよみ

入社祭
1日　午前10時

よふき会例会
2日　午前10時

月次祭
13日　午前10時

青年会例会
13日　午前10時

布教実修所
14日　午前10時

むつみ会例会
16日　午前10時

女子青年例会
17日　午前10時

鼓笛隊練習日
17日　午前10時

こども食堂ＭＯＧＵ
17日　午後5時

婦人会例会
20日（本部参拝）

本部月次祭
26日　午前9時

習字のＯＫＥＩＫＯ
華水教室
5週目を除く毎週木曜日

（前ページからの続き）

と、教会設立の元一日に触れたうえで「どうか、本愛の道もこの先まっすぐに延びて、親神様の思召にかなう教会の姿にますます近づいていくように」とお書きくださっています。

私はこの中でも「教祖のひながた」「たすけ一条」「御恩」という言葉はキーワードであり、いまの本愛に一番大切なことではないかと感じます。

親神様の「顔」は

ところで、今年のこどもおぢばがえりで、ある教会につながるお母さんと話をした際、彼女から「子供が『親神様の顔を見てみたい』と言うんです。どう答えたらいいですか？」と聞かれました。

私はとっさに「心で感じるものだと思うよ」と返したのですが、また別の折に天理幼稚園で「親神様の顔を描いてみよう」という時間があることを知りました。ある子が描いた顔は、羽が生えたドラえもんだったそうです。あどけないものですが、今も昔も親神様のお姿を私たちが直接拝することはできません。

そのためにこそ、教祖は五十年の長きにわたり、実に様々な工夫をされながら親神様のご存在を人々に伝えられました。

「神」「月日」「をや」という言葉にも人々がわかりやすいようにというご苦心が感じられますし、御自ら身に示しても伝えてくださいました。それがひながたであります。

また、おさづけの理を通して、身上が親神様からのかりものであること、心通りのご守護をくださっていることを明らかにし、さらには貧に落ちきられた道中、どんなときでも喜びの心で通れること、人だすけ一条に通ることの尊さを示してくださったのです。

教祖のお言葉に「この道は、知恵学問の道やない」とあります。私ども高安の初代である松村吉太郎はこのお言葉に、自身のこうまんのさんげをしました。教祖のお導きによって自分の癖性分を改めて、たすけられる側からたすける側へと成人の道を歩んでいくことに今も昔も変わりはないのです。

現在は教祖の年祭に向かう三年千日の最中ですが、三年千日に関するおさしづの中で、「十のものなら八つという。後二分の処放って了うは八分という。難しい。後二分というたら僅かや」（明治22年11月7日）とあります。

八分は親神様がご守護くださり、最後の二分は私たちの努力です。それでいいとまで神様はおっしゃってくださっている。

私の知るある人は「自分には伸びしろがある」と話していました。

ぜひ皆さん方にもそれぞれにまだまだ「伸びしろ」があると捉えていただき、成人の歩みを進めていただきたいと思います。

連載「現代に生かす『用木の道』」はお休みします。

立教百八十七年　秋季大祭　祭典役割

祭主　大教会長
扈者　都築隆道　大橋　進
指図方　安藤正二郎
賛者　塚原光男　出口邦郎
開扉　大教会長

おつとめ役割

	（前半）	（後半）
（座りづとめ）		
大教会長	杉村善男	長江邦彦
前会長	山神茂彦	久保眞樹
板山公司	山本正太郎	野田正樹
大教会長夫人	出口敬子	渡邉眞由美
佐藤孝代	佐藤明美	伊藤純代
青木奈美子	加藤ふみ	久保洋子
てをどり		
安藤正二郎	出口順英	板山眞一
筑紫英一	吉田克義	佐々壽章
吉田正信	松原悟	山本治行
地方		
青木健裕	中島功雄	大橋新一郎
桑子保	水野和好	安井篤
田中新一	種田孝男	長尾誠
出口雅美	津田豊郎	上野孝吉
加藤成幸	松浦道太郎	坂倉敏男
野田正道	伊藤寿輝	中島裕信
都築花枝	津田かずみ	山本和恵
前会長夫人	門田和美	佐藤多喜恵
安藤美恵子	細川やよい	種田里恵

笛　ちゃんぽん
拍子木　太鼓　すりがね　小鼓
琴　三味線　胡弓

教理随想

言わん言えんの理を探る

【第118回】

三年千日二年目の終盤へ
陽気な心でおたすけ実践

今年も晩秋から初冬へと向かう季節を迎えました。時の移ろいと共に、お道の旬は教祖百四十年祭へ向かう三年千日二年目の終盤です。年が明けて三年目は、いよいよ年祭活動の仕上げの旬。私たちようぼくの目標は、諭達第四号に示される通り「ひながたを歩む」努力で、具体的には教祖のお望みである人だすけを実践することです。

これまで周囲へ心を配りながら、おたすけに奔走してきたお互いですが、これから迎える旬は、さらに強い決意をもち、自分にできる人だすけを身近な所で実行する努力が望まれます。

一方、我が身をふり返っては「心のほこり」を払いつつ、ひながたに示される教祖のお心から外れてはいないかを反省する姿勢も忘れてはなりません。

教祖は、

なんぎするのもこゝろから　わがみうらみであるほどに

（十下り目7）

とご教示くださいました。

病気や難儀不自由を抱えて苦しむのは、自分の心に積もったほこりやいんねんが種となって芽生えてきたもので、医薬や金銭や法律で一時的に治まったように思えても、元が断ち切られていない限り身上事情はくり返すばかりか、より深刻な問題となって形に現れてくる、という意味です。

世の中には病気だけではなく、様々な事情で悩み苦しんでいる人が少なくありません。教祖はこれについても「わがみうらみ」と教えられ、決して相手や世間を恨むのではなく、我が心のほこりを払う道をお教えくださいました。

そして、人間が幸せを味わうのも苦難の人生を通るのも、すべては心の動きから生じるのだから、その心が「天の理」から外れないようにと自らひながたの道を通られ、あとに続く私たちのために原典を記して、人としてのあるべき道筋を明示されたのです。

中でも教祖が強く促しておられるのが、「人をたすける心」になることです。

■先人の道を心に刻んで

ともすると私たちは、「自分のことで精一杯」とか、「人をたすけるなんて自分には無理」と決めつけて、声をかけることすらためらってしまいがちではないでしょうか。しかしその時こそひながたを思い浮かべ、勇気を出して一言の声をかけて、たすけの手を差し伸べる。これがようぼくの年祭活動であることをもう一度思い起こしましょう。

ましてや我が身、我が家に身上や事情が現れているのなら尚更のこと、心を外へ向けておたすけに精を出す。そうしなければ本当にたすかる道にはつながっていかないのであります。

「人をたすける」といっても、自分の能力や裁量、知識や経験だけでたすけるのではありません。悩む人の身上や事情に、不思議なご守護が現れるようにおつとめで祈り、蔭の理づくりに励む。これがおたすけの最も大切な要点です。

私たちの親や先人は、超能力や霊力があったから人だすけを実行できたのではありません。皆、私たちと同じ普通の人だったのです。その中でもし違うところがあるとすれば、できてもできなくてもひたむきに教えを実行する素直さと、徹底した神一条の信念ではないでしょうか。

こうした先人の道をもう一度心に刻み直し、勇気をもって人だすけに踏み出して、教祖にお喜びいただけるような陽気な心で年祭活動を進めていきましょう。

いちれつにはやくたすけをいそぐから　せかいの心いさめかゝりて

（一―8）

名古屋まつり出演
鼓笛隊ＯＢらの姿も

少年会

本愛鼓笛バンドは10月20日、「第70回名古屋まつり」に「郷土英傑行列」の先頭を担う少年鼓笛隊として出演した。

今回は事前から出演者の人数不足が危惧されていたが、鼓笛関係者をはじめ多くの人々によって出演の呼びかけが行われ、多くの鼓笛ＯＢらも出演。大名行列を華やかに彩った。

9月のおさづけの理拝戴者

渡邉佐夜香（本和合）
板山理紗子（本濱松）
大橋隆人（本愛中）

9月の初席者

川合未千江（本心宮）
ハイメイ・ドゥエナス・ジュニア（本心徳）
ニーニャ・フェルナンデス（本心徳）
進藤新生（本愛守）

本昭和分教会二代会長中島やゑ之霊の四十年祭

本昭和分教会では10月19日午前11時より、二代会長・中島やゑ之霊の四十年祭が同分教会で行われた。

本愛大教会おたすけ推進団参

～記念祭の喜びと御礼の思いを胸に～

9月1日～11月30日

大教会日誌

令和６年９月25日～令和６年10月24日

9月

26日　本部月次祭

28～30日　全教一斉にをいがけデー

30日　常任役員会議、役員会議

10月

1日　入社祭

祭　主・大教会長　扈者・山神茂彦、伊藤寿輝

指図方・青木健裕　賛者・長良英男、出口順一郎

◇祭典講話―野田正道

2日　よふき会例会

12日　常任役員会議

13日　秋季大祭

祭　主・大教会長　扈者・都築隆道、大橋進

指図方・安藤正二郎　賛者・塚原光男、出口邦郎

◇祭典講話―本部員・高安大教会長

松村義司先生

◇大教会長挨拶

◇祭典後、直会

青年会例会

14日　布教実修所

16日　むつみ会例会

17日　こども食堂ＭＯＧＵ

19日　女子青年例会

20日　婦人会例会

名古屋まつり（本愛鼓笛バンド出演）